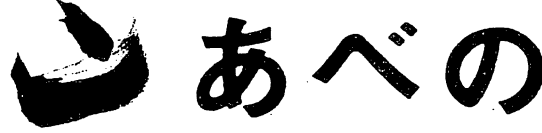


出会い ふれあい 助け合い



NO 86

サロン・あべの七月の出会い

障害者としての出発

—みんなに命を担がれて—

平成五年七月十七日(土)午
後一時から、育徳コミュニケーション
センター二階研修室において、
サロン・あべのの七月の出会い
を開催した。

パネラーは、尼崎市立若草中
学校教諭の曾我部^{そがべのりこ}敦子氏である。
先生という職業柄か、とても聞
き取りやすい、はっきりとした
口調で、約一時間お話をしてい
ただいた。

入院生活

四年前、アフリカを旅行中に
乗った熱気球が墜落し、首の骨
を折るという大事故に遭う。現
地の病院に入院はしたものの、
設備や言葉の問題から万全の治
療は望めず、医者と看護婦が添
乗する特別機で帰国。関西労災
病院に入院。



まず、集中治療室で、人工呼
吸器をはずす訓練を開始。車椅
子に乗って動けるようにするた
めには、どうしても必要な訓練
である。しかし、これが非常に
苦しいもので、毎日、死にたい
と思いつながら泣いていた。

約四か月の訓練の後、やっと
人工呼吸器がはずれ、一般病棟
に移った。ここでやっと、首か
ら下が動かないという自分の体
を認識し、この状態で生きてい

ることに疑問が生まれた。首か
ら下が動かない、という現実を
受け入れられず、泣くばかりの
生活が、また半年続いた。

その間にも、苦しいリハビリ
が続いていたが、毎日、卒業生
や保護者、友人等の見舞い客が
訪れた。色々な話が出る中で、
授業の話もあり、その時、元の
職場に戻りたいと思う心が動い
た。

教壇への思い

元の職場に戻りたいという思
いが、少しずつ膨らんでいき、
希望がわいてきた。もう死にた
いとも考えなくなった。自分の
障害を受け入れられるようにな
ってきた。

復職した後のことを「通勤。
理科教室での出欠。板書は生徒

にしてもらい、自分は言葉で指導する等々……」具体的に考え始めた。(過去を懐かしむのではなく、障害者として教壇に立つ、未来の姿が見えてきたのである) 職場復帰に向けての行動も開始した。

地域での生活

病院での治療が終わり、退院を勧められた。退院後は地域で家を借り住みたいと思い、色々な人に相談したが、その答えは悲観的だった。そこで、地域で生活したいという考えを、朝日新聞に投稿したところ、二百通を超える反響があった。

ピラ配り等をして、介護者を捜した。十人ほどボランティアが集まったところで、3LDKのマンションを借りた。二つの部屋を、それぞれ二人の同居人に無料で提供し、代わりに夜の介護を頼んだ。

授業

自分のような教師が、いてもいいんじゃないか。自分にしかできない授業が、あるんじゃないかと考え、やっと校長に復職の希望を伝えた。

労働組合にも支援され、条件付きながら、復職可能という医師の診断書と共に書類を提出。今年二月六日、休職期限の切れる数日前になって、やっと復職を認めるという通知が届いた。

昨年九月、念願の地域生活を始めた。当初、発熱が続いたこともあり、小学校で授業をするチャンスがあったが、実現しなかった。その後、豊中市の小学校で授業をし、職場に復帰した

いと痛切に思った。枚方市の中で二度目の授業をし、高い評価を得るが、休職期限が二か月後に迫っていた。

復職

現在は、尼崎市教育総合センターで、現場復帰に向け研修を続けている。

リハビリのつらさや、教壇への熱い思いが、ひしひしと伝わると、ほんとうにすばらしいお話であった。

雨にもかかわらず、四十人の参加者があり、感想や質問を受け、七月のサロンは幕を閉じた。司会及びまとめ 上平幸雄

生きる力、尊い命!

人間は一人では生活出来ない、又、人という字は、二人の人が支えあう姿であるとも言われています。

そして、生きる力はお互いをおもいやる心から育まれていくのではないのでしょうか。

友情の林間

森下 公子

最近、身近に起こった事……そして、感じた事、ちょっと聞いて下さい。

我が家の孫、高校一年生が半月程前、バレエ(ダンスの方)の練習中に、膝の靭帯損傷で救急車のご厄介になり、入院致しました。膝上十糎位から足の先までギブスをつけ、なさけない顔をしてベッドに寝ておりました。はじめての松葉杖の生活で、ま

ず困りましたのがオトイレでした。何しろ背丈が一六三糎、膝を真直にのびしますので、トイレの中で足が入らず、横にむいて用をたし、お角力さんではありませんが、大きいトイレの必要を感じました。

高校一年生の夏だけ林間：があり、これも信州への旅であきらめておりました。

ところが十日余りで退院しました所へ、学校に懇談で出かけました娘が、私と孫に「先生が、お友達が面倒をみるから是非、(孫を)林間に連れて行くのを許して下さい。」と申し出てこれ、主任の先生と相談中ですが、まずお連れ出来ると思います」と言うお話をもって帰ってきました。

孫は「うれしい、うれしい」といって絶句、泣いていました。

私も人情、友情、薄い最近、よいお友達をもって幸せだと、同じ様に涙がとまりませんでした。

学校への行き帰り、人様のお世話になる事も多く、自分自身、身体の不自由な方たちよとした事にも困る事を体験し、教わる事でなく、身をもっての体験で少しでも障害者の気持ちに分ってくれたかなと、私は喜んでいきます。

孫はお友達の友情にさゝえられ、先生の愛情におすがりし、明朝早く松葉杖で出発します。さぞ、一生心に残る旅になる事でしょう。

七月のサロンに参加して

山下 栄一

大学の通信教育で教育学を専攻している私にとって、あるテレビ番組で教育への並々なぬ情熱を語っている曾我部先生の姿を見て「どうして、ここまで情熱を燃やせるのだろうか?」と思つて、参加しました。

先生のお話を聞かせていただいたて感じたことは、次の四つでした。

- ① どんな状況にあつても、自分のへ想い(夢)をあくまで挑戦し続けなければならない。
- ② 自分のへ想い(夢)が強ければ強いほど共鳴してくれる人が必ずできる。
- ③ 教育で必要なのは、先生が生徒を教えるのではなく、先生と生徒が一緒に学習し、いつもへ何かを考えさせることではないか。
- ④ 「がんばれ」という問いかけが人によ

つては、とても苦痛になる。ひとりひとりの人格・気持ちをしっかりと尊重することが大切だ。

曾我部先生が、今後自分のへ想いVを実現していくうえで、常に困難な事に突き当たるとは思いますが、さらなる前進ができませんよう、又、本当の教育の大切さは何かを問いかけるためにも、これからの活躍をお祈り申し上げます。

復職を祈る

大谷 美津子

去る七月十七日、私は初めて「サロン・あべの」に参加させていただきました。

曾我部先生のごことは、新聞やテレビで存じておりましたが、先生ご本人を前にしてお話を聞かせていただき、感動の連続でございました。

一瞬の事故で、首から下が完全にマヒされ二四時間介護なしでは生活できない状態になられた先生のお話の中、ご自分の現状を受け入れられなくて、毎日毎日泣き続けられたこと。又、大変苦しいリハビリの様子を淡々と話されましたが、ここに至るまで

の先生の心中は想像を絶するものであったろうと思いました。

目の前の飲み物さえも、自分の思いのままにならないお姿に、現代の医学で何とかならないものかと思ってみたり。又、教師としての復職を希望される先生に対して、今の日本の社会が健常者中心に構成されていることを強く感じました。

曾我部先生が常勤の先生として、教壇に立たれたなら、全ての生徒は先生を助け、素晴らしい授業になるだろうと想像しますし、授業を通じて人を思いやるやさしい心が子供達に育つのではないかと思います。一日も早く、先生の復職が実現出来ます事を、お祈り致しております。

七月のサロンに参加して

大城 玲子

私は、今回初めてサロンに参加させていただきました。

以前から曾我部先生の事は、新聞やテレビで知っており、陰ながら応援していた一人でしたので、新聞で講演の事を知った時は、思わず「アッ」と声が出た程でした。

サロンで実際にお会いし、お話を伺った感想は一言で言えば、重い。私には重すぎて胸がおしつぶされる程の衝撃でした。先生は、今の現実の中で障害をおった私にしか出来ない教育をしたいと、意欲的に燃えられるものを見つけ出され、活動されている。

もし、私が先生のような状況におかれたらどうしただろう。

何の取り柄もない私は「ワー」と叫ぶ事ぐらいしか出来なかったのではと、頭を端をかすめる。

先生が気球に乗った事に関して後悔してないとおっしゃったには、心が救われました。

最後になりましたが、健常者と障害者が一緒になって、福祉に対して運動していくのが大事なのではないでしょうか。

生きること

九死に一生を得たという言葉を報道などで聞くことが時たまありますが、曾我部先生のお話はまさにそれでした。

そうして得た命を生かすために、筆舌に表わし難い辛さを乗り越えられて、ご自身の進むべき道へのトビラを見付けられました。それはご経験ある教職への道ではありませんが、障害者としての復帰ともなりません。未踏の道であり、これまでの耐えて乗り越えてこられた療養生活ではなく、広い社会を相手にした積極的な行動が必要だったと想います。その熱い想いのエネルギーは、今まで積み重ねてこられた教職生活であり、人間関係だったと思います。

子供達に教えたい、伝えたいという想いは、ご自身の生きる目標として語られていましたが、ご自身だけの為にそこまでは出来ないと感じました。多くの障害者や、健康な人達に生きること、命の尊さを示される為だと思いました。

人間は、自分だけの為だけでは生きていけないと想うのです。

今、生きていることは、今必要とされていると想うのです。その生活範囲や社会的内容が、それぞれ違っていても生きていく意味は一つではないかと感じました。 K

●高齢者と在宅介護 1

● 神垣 真澄
かみかき まさみ

現在健康な人も、年をとってから介護を必要とする可能性は持っています。障害を持つ人々も、やがては高齢者となります。

要介護高齢者の増加、障害者の高齢化という現状が示すように、高齢者と障害者は、今や切っても切り離せない関係にあると考えられます。しかしながら、それぞれの立場から事象をとらえがちで、お互いの理解はまだそれほど進んでいないのではないのでしょうか。

今回より、高齢者の在宅介護の周辺について連載させていただきます。高齢者に対する福祉という視点から書かせていただきますので、皆さんととらえ方が異なるかもしれません。高齢者福祉への理解に少しでもお役に立つことができれば、嬉しく思います。

一、高齢者の現状

まず、基本的な理解として、高齢者を取りまく現状について触れます。

①高齢社会

平均寿命は、平成二年で男子七十六・一歳、女子八十二・一歳と、世界の最高水準にあります。一方、出生率は低下しており、一人の女性が生涯に出産する子供の数を示す合計特殊出生率は、平成三年で史上最低の一・五三人となっています。このように平均寿命の伸長と出生率の低下により、我が国の高齢化は急速に進んでいます。

②家族

我が国の総世帯数は四千五十万六千世帯で、このうち二八・七%が六十五歳以上の者のいる世帯です。この世帯を世帯類型別にみると、三世代世帯が減少してきており、単独世帯と夫婦のみ世帯が増加傾向にあります。

また、高齢者と子との同居率をみると、昭和三十二年では八一・六％に達していたものが、平成三年では五七・六％にまで低下しています。

③要介護高齢者

高齢者の中でも、七十五歳以上の後期高齢者層の増加が予測されており、これは、要介護高齢者の増加につながると思われます。寝たきり老人(六十五歳以上で寝たきりの期間が六か月以上の者)は、平成二年で約七十万、平成二年には約百万人になると推計されています。痴呆性老人については、平成二年で約九十九万人、平成二年には約百五十万人に達するとの推計があります。

④介護者

要介護高齢者の介護者は、東京都の調査によると、配偶者が約四割、息子の妻が約三割、娘が約二割となっています。ただし男女別で見ると大きな違いがあり、男性の場合は、配偶者が七割強、息子の妻が一割強、娘が約一割となっているのに対して、女性の場合は配偶者が一・五割、息子の妻

が約四割、娘が約三割となっています。つまり、男性は奥さんに、女性はお嫁さんに介護を頼んでいる割合が高いことになりました。

(参考) 厚生省老人保健福祉局監修 『老人の保健医療と福祉』 (財)長寿社会開発センター、一九九三年

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

ブスとブタの会話

楽しんでいる。

最近、何を思ったか実習生(更生施設より地域の工場等へ実習として働きに通っている)のKさん(三〇代の女性)が「田淵のおぼはん」「田淵のブス」等、ちよくちよく私をからかって遊んでいる。

そんなある朝、同僚と出勤してきた私と、これから出勤するKさんがバッタリ会った。するとKさんは挨拶もなしに「田淵のブス」それを聞いた同僚が「何てこと言うの」と軽くたしなめるのを聞いて、(指導員は注意するべきなんかなー)と思いつつ、

私も

「えっ、おぼはんはどこにおるの?」
ととぼけたり。

「Kのブタ、行ってらっしゃい」
と送り出した私でした。

「Kのブタ」
などと言い返したり、そんな関係を

「Kのブタ、行ってらっしゃい」
と送り出した私でした。

八木重吉よりも五年長く

八木重吉(詩人 一八九八—一九二七)よりも五年も長く生きてしまった私には、すべてのことが、そのまま余分のことのように思えてくるのだ。



私の日常といえは、いつものような目ざましの音に起き、食パンを口に入れて、バスに乗り電車に乗って都心にまで身体(からだ)を届ける。職場に出ると同僚と雑用を片づけ、夕暮れになり、また電車に乗り帰る。自宅に着けば、ドアを開け、暗い部屋に電気をつけ、沈黙をかき消すようにテレビのスイッチを入れ、とどいた郵便物に目を通す。そして風呂に入り眠る。そういつた毎日の繰り返しは、すべて五年前に死んでいたはずの重吉にとつては、余分のことだった。私は幸運にもまだ生きている。休日にとり散歩に出る。この街にきてまだ一年と少ししかない私には、知らない人たちの家ばかりで、日だまりの草むらに忙しく働くアリたちの仕事をじっとしやがみこんで見つめていても、誰も怪しむことはない。自分たちの体の数十倍もある大きなハエの死骸を運ぶアリたちに、よし、これだけの仕事をおまえたちはやり遂げたいという証人に私になろうと心を決め、足のしびれるほどに屈(かが)んで見ていたが、いや、誰に私は語ることができるのか、立ち上がり周りを見渡しても私は独りだ。

ふたたび歩きはじめて、初夏の清らかな風を私の裸の腕にあてると、これは余分のことだ、これは運よく、あるいは天の気まぐれかなにかで与えられた余分の時間なのだという思いが、私を捕らえて放さない。幸いにして身を打つような苦痛も、さしそまった危険もなく、私は、そういう意味でまだ自由を手に行っている。

私心(わたくしごころ)のために公平さを欠いてはいけぬ。三十年で閉じた重吉の生涯を良しとするなら、すでに五年長く生きてきた私の現在を、祝つて迎えるべきなのだ。私が味わってきた喜びや悲しみは、深さや大きさでは及ばないとしても、早く世を去つた重吉の喜びや悲しみと大きく変わるはずはなく、通(とお)つてきた時間はまちがいなく私の方が長い。

道すがら雑草を手にして無造作に引き摺(つか)み、溝に投げつけても、このようになわずかなことさえも、重吉は生まれて三十五年たつた後には土になつていて、できはしなかった。

このうえ何を望むのか。

夭折した詩人の生涯が纏られた小さな本をもつて、私は明日、河のほとりで誰か知らない子どもたちの遊ぶのを遠くから見ていよう。そして、ついには子どもたちの遊ぶ風景のなかの一筋の蔭となろう。そうす

れば、私が憂鬱になるのは、なにかの思い
ちがいであることにきつと気づくにちが
ない。忘れていたなにか、まだ知らされて
いないなにかに胸をうたれ、狼狽した心を
脱ぎすて、かならずや落ちついた足ど
り、また家に帰ることができるような、そ
んな予感すらしてくるのだ。
(知)

井 感謝します井

カンパ・切手・ハガキ・バザー用品・
冊子等、ありがとうございます。

お礼を申し上げます。

七月のカンパ 金一二、〇〇〇円

- 赤松菊間、秋野富美子、宇野律子、
- 浦野清美、岡本登志子、岡本憲俊、
- 大北清子、金岡千恵、金子花江、
- 木村圭子、栗谷正美、黒羽玲子、
- 小西ゆみ子、古根川、武田真理子、
- 竹中千代子、竹村定子、田中美智子、
- 出村、西 和子、長谷川マキエ、
- 東谷和代、平沢邦子、蛭子フサエ、
- 町田旬子、松田峰子、松森美智子、
- 丸山寿美子、柳生幸子、山口豊子、
- 山本敏子、和田保子、吉原和朗、

匿名二名。(敬称略)

ステンシルに挑戦

ステンシルという言葉をご存じです
か? 金属(ステンレス)ではありませ
ん。はやい話が型染めのこと。
葉書やプレゼントの箱、衣服や小物、

●河合恵子

作る

つくる

創る

2

台所用品や家具、あるいは揺籃など様
々なものをアメリカン・フォークロア
調に装飾することができます。

なぜ、このような話を? という、
七月のサロンで南光仁子さんがステン
シルを施したTシャツを着ていらした
ため。実はこのTシャツ、三年前の
暑い夏、あべのカバーバルのバザーで
着ようと皆で作ったもの。石田律さん
デザインによる樹木の文様(サロンを
イメージしたもの)を山本篤江さんの
指導のもと、まず、型紙作り。次に図
柄をはんだごてや特製のカッターを用

いてくり抜く。そしていよいよ白色や
灰色のTシャツの上に型をテープで止
め、少し穂先の短い筆で茶色や緑色
を置いて行く。単純な作業のようだが、
木の幹、葉と思いきいの色を次々うめ
ていくうち、時間のたつのを忘れてし
まう。出来上りはシンプルでしかも温
かい雰囲気が出て上々。やはり、ナチ
ユラル志向の文様(草花や自然をテイ
マにしたもの)が一番似合うように思
いますが、独特の文字や柄を便箋や封
筒に応用してみるのもおすすめです。
一度試してみたいと思われるかたは、
東急ハンズやそごうホップの画材売り
場などへ行かれると既製の型紙をはじ
め、専用の絵の具、筆など必要な材料
が揃います。





はあとが、はろー！

生活と結婚

富田 慶子

毎年、あべのカーニバルが終ると秋を感じていました。今年も八月八日のあべのカーニバルの前日は、暦の上では立秋。

秋風が吹いても何んの不思議もないのですが、今までのその日はとても暑い日ばかりでしたので、立秋が過ぎていたなどとは考えもおよびませんでした。でも、工芸高校のグラウンドに夜間照明が灯もると、ひんやりとした夜風が流れて、べとついていた肌がサラリとしてくるのでした。立ち働い

ている方は、汗を流しておられてもじっと座っている者には、その風の言葉が聴こえてくる想いがするのです。

「秋の先走りですよ」という声が……
そして、サロン活動も無事に前半が終了という安堵感を味わいます。

その為でしょうか、九月のサロンの出会いは生活に根ざした内容となっている事が多いように見受けれます。

昭和六一年の九月は「コミュニティとボランティア」をテーマにして障害者が地域との関わりの中で持つ悩みを、ボランティアの方々と話合ったのですが、翌年の六二年と次の六三年の九月の会合は、結婚生活がテーマになっています。

最も、六二年度は、年次テーマが障害者の「結婚」となっており、五月は「結婚—その以前にあるもの—」として、障害者が結婚に至るまでの様々な想いを話合っていました。又、六月の会合は「結婚—その出会い—」をテーマにして、田中逸郎氏に実例を交えて障害者の結婚問題について話をしていた頂きました。そして、9月の会合では聴覚障害者の既婚者にお話を……という

事で、新婚三ヶ月目の辻田夫人とそのお友達である子育てで真最中の上野夫人にお話を伺いました。

翌年の九月にも偶然でしょうか、「私のあるいて来た道」と題して秋野富美子さんに結婚生活について色々なお話を伺いました。前者は、共に聴覚障害のご夫婦のお話であり、日常的な家庭生活での不自由はあまり感じられないが、子育てや買い物等対人関係でのご苦労があるのが印象に残りました。それに対して、秋野さんの場合は、聴覚障害者のご主人と肢体障害者の結婚生活という事で、工夫されたお二人の対話から生活が始まったと伺いました。

障害者が結婚を考える時、特に肢体障害者の場合ですが、まず自分の身のまわりのことが出来るか、相手に負担をかけないか、相手に自分の想いを伝えられるだけの生活（女性の場合は家事全般、男性なら経済的事務）が出来るか等々、様々な事柄に対して自問自答をしています。そして、やっぱり何も出来ないと言う答えを出してしまいがちです。ところが、結婚をしている障害者は、それ程尽きつめて考えずに縁有って

結ばれたという感じがするのです。個人ごとの障害を拾い出して、出来る、出来ない、と花占いのように考えるよりも、お互いにお互いが必要と感じた時、ウエディングベルが鳴り響くのだと想いました。

あれから五、六年の歳月が過ぎ、新しいカップルの話も聞きますが、出来ることならサロンでの出会いからステキなカップルの誕生を...と希わずにはおられません。

三つの愛

森下 公子

ますます、充実してきたサロン・あべのVじっくり読ませていただきました。

ボランティア活動振興基金の助成金を交付される様になられた事、地についた活動の積み重ねが今日に至った事と、お喜び致します。

三つの愛「出会い、ふれ合い、助け合い」とても素敵な愛です。

私も娘も孫も自然にこの愛をつらぬいて行けます様、日々を大切に過ごしたいと思っています。

美智子のこんな話



岸田 美智子

「施設障害者は、日常生活用具がいらないのか?!」

在宅障害者の場合、コミュニケーションの難しい人や、手の緊張で筆記ができない人などの間では、ワープロがとても普及していると思います。

キーボード操作だけで、自分の意思が自分の言葉でいろんな人に伝える事ができるので、大変便利な物です。

そして、日常生活用具助成制度が受けられ低額で手に入りますが、施設障害者はこの制度が適用されません。施設にいるので生活用具は施設の方で一切ととのっているというわけだそうです。施設にもワープロはある事はあるのですが、なかなか使え

ないそうです。

毎日新聞「いま 大阪は「障害者福祉」欄に、脳性まひで言語障害を持つ青年が、在宅生活から施設生活への住み替えの過程（生活の殆を施設で過ごす）で、施設でも個人用のワープロを必要として、購入補助申請をしているが、施設ではそれらの備品はととのっているとして、個人用の給付希望が受け入れられる見込みはないという記事が掲載されました。

この新聞記事の方も、自宅によく帰られるのですが、帰った時には家族との対話にもワープロを使っているそうです。彼にとってワープロは体の一部のようなのです。

このような施設障害者の問題は、今まであまり取り上げられなかったと思います。

ガイドヘルパー制度適用と共に、大きな問題だと思えます。

皆さん、感想を聞かせて下さい。



大連に四ヶ月余り住んで

中村 美根子



我在住大連四个多月

連載第一回

大連は中国の東北地方に属し、秋田市とほぼ同じ緯度であり、昔から港町として栄え、戦前は満州帝国の日本人町として賑った所。今では大連賓館と東本願時（西本願時かも）の建物が残っているだけ・・・

当時住んでいた人たちには懐かしい町でしょうが「アカシアの大連」に残る面影はほんのわずか。

二月二七日から七月十四日迄住んでいた大連外国語学院は、山の中腹にあり二〇年ほど前の校舎の一部はリング畑、戦前は神社の境内。

留学生寮はその一番上にあり、すごい坂と階段を上って行きます。大連外国語学院は、以前は日本語学部でしたが、今は英、ドイツ、ロシア、フランス、チョウセン語があり、本科生の外に培訓部（ばいくんぶ、日本に行く為に日本語を勉強する中国各地から選ばれたエリート、三〇歳前後の人達）があるのが特徴で、ここで半年間日本語を学び、日本の大学や企業の研究室

へ派遣されるのです。日本語には權威のある大学です。

中国では七階まではエレベーターがいりませんので、六、七階建の建物が多く、留学生寮も六階建て。ロビー、教室は二階、食堂、シャワー室は一階。五階の我が部屋からは、電話や呼び出されるたびに二階まで渡り廊下を走って下りて行かなければ・・・アアシンド。

寮は中国人は特別な用がない限り入ることができません。二階ですべて用を済ませます。

冬の終りから夏の始めまで四ヵ月半の留学生寮での生活は、停電や停水に悩まされましたが、ベッドの生活も慣れればなかなかのもんで・・・蒸し暑い大阪より夏はずっと過ごしやすく、もう少し遅らせて帰ればと・・・悔まれます。

冬から春の大連は風が強く埃の舞う日々が続きますが、アンズや春迎花（レンギョウ）が咲き、柳やポプラの緑がだんだん増え

アカシアが咲く頃（五月二〇日過ぎ）が一番いい頃ではないでしょうか。いまは（七月初め）ネムの木の花が、この一見汚い街に美しさをかもしだしています。

皆さんは「中国」と言うときどんなイメージをおもちですか？

日本と言うのがサムライ、ゲイシャに代表されるイメージでしょうか・・・

中国一のファッシュヨナブルな町「大連」は流行にもどの町より敏感で、ソバージュにミニ、オシャレな人が目立ちます。スタイルがいいから決ってる！

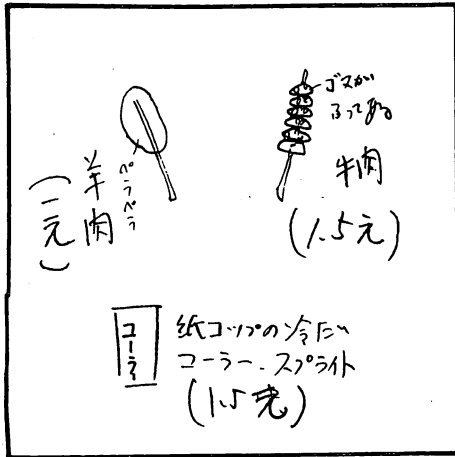
大連一の繁華街、天津街はそんなファッシュヨナブルな若者たちやオジサン、おばさんたちでいっぱい、ただ日本人の感覚からすれば・・・ド派手・・・

人々は羊肉や牛肉（串にさして油で揚げる）をかぶりながら（今はイカの串焼が一番がナウイ）歩いていきます。私達も牛肉は店の前でよく食べました（かぶりつく？）。暑くなればアイスクリーム片手にこの天津

街は、去来東西、食べに、買い物に、よく行きました。

中国には、外人の使う(兌換券)と中国人が使う(人民券)の二種類のお金があります。円をそのままレートで人民券に替えると正規で替える倍になります。兌換券一〇〇元は一五〇人民券に・・・もってまココロ変る中国の事、今はどうなっているのかなア・・・

兌換券で支払ってもお釣りは人民券なので我々はいつも人民券でした。そのほうが安全!



イラスト・中村美根子



ふれ愛

上平幸雄

空の旅

最終回

日本人の欧米に対するコンプレックスは、福祉の面にもあるのかもしれない。

ここ十年ほどの間に、多くの障害者や、研究者がアメリカで福祉を学んで帰国しましたが、一様に、アメリカの障害者福祉は進んでいると言います。研修という名目がありますから、アメリカの良い点について発表するのは当然ですし、また日本の福祉の遅れている点を際立たせることで、障害者運動に、はずみをつけようとするのも理解できます。しかし、アメリカが障害者にとって、まるでユートピアであるかのように伝えられていることに、少し行き過ぎを感じます。

今回のこの旅行でも、たくさん施設を訪問しましたが、時間的な制約や、大阪市からの訪問使節団としての立場から、あまり突っ込んだ話は聞けませんでした。

逆に、訪問される施設の側の立場からすると、こういう訪問客は、とてもありがたかったのではないかと思います。というのも、各施設の運営費は、政府や州からの補助金や基金でまかなわれていますが、そういった予算を獲得するのに、日本から見学に来たというのは、実績としてとても良いPR資料になるのです。

アメリカで実際に会った障害者たちも、ある意味で、やはり恵まれた人たちだったと思います。

もし、もう一度アメリカに行くチャンスがあれば、日本からはとても見学に行かないような、評判の悪い施設や、あまり活躍していない、普通に暮らしている障害者にも会ってみたいものです。

ここまで批判じみたことを書いてきましたが、完全無欠な人間が存在しないように、アメリカの障害者福祉も、完全ではないと言いたかったのです。

しかし、やはりアメリカの障害者福祉は、日本より進んでいますし、まだまだ、学ばべきところがあるのも事実だと思います。そんなに固く考えなくても、たとえば、

パークレーの街を、我が物顔に走り回っている、電動車椅子を見るだけでも、また、カリフォルニアの太陽を浴びてその空気を吸う、それだけでも、アメリカに行く値打ちはあると思います。経済問題などで、アメリカの没落が言われていますが、その底知れぬパワーは、行ってみなければ分からないものだと思います。福祉という面に限らず、言葉にできないような魅力も、アメリカはもっています。

最後に、アメリカから帰って来て、もうすぐ一年がたとうとしています。同行してくださった、大阪市の職員のみなさんや、旅行社の方、また現地での案内や、通訳をしていただいた方々など、本当にお世話になりました。お陰で、何のアクシデントもなく、たくさんの思い出と共に、無事帰国することができました。ありがとうございます。

これでこの連載も終わりです。長い間、つたない文章を読んでいただいて、本当にありがとうございます。

私の職場

土屋 由美子

私の勤務しております会社は、長谷川工務店(旧名)が障害者雇用率達成を目指して作った障害者だけの子会社なのです。

東京のハセコー本社は芝にありますが、私たちシステムズは浦安の、ハセコー独身社員寮の二階部分に会社としての部屋を幾つか持ち、一階の独身寮に、社員十七名のうち十二名が住んでいます。あと五名は自宅より通勤、そのうち一名は結婚して近くの公営住宅に住んでいます。寮はちょうどホテルのシングル部屋のような作りで、各

自の障害に応じた改造がされていますが、私は全く改造の必要がありません。部屋の中では松葉杖を使っています。

他の人々は、例によってバス・トイレ・ユニットは敷居が高いし、狭いですので、床を高く張ってもらって、車椅子から登って使っているようです。床の高さも各自使い良い高さに注文しています。寮は四五〇室あり、他はもちろんハセコーグループの社員が使っています。二階に食堂があり、朝食二五〇円、夕食四〇〇円で、けっこう良いメニューです。洗濯室も障害者は別にあります。洗濯機・乾燥機が一台ずつで、十一名で使うには足りないようです。

社員十七名(男十二名・女五名)のうち、聴力障害一人、軽度下肢障害一人、片上肢障害一人、この三人だけが車椅子ではありません。女子は全員車椅子でポリオが私一人、脊髄種よう後遺症一人、あと三人はCPで、手も多少不自由です。(うち一人は電動車イス)男子はほとんどが事故による中途障害らしく、九名の車椅子のうち、半分がけい椎損傷で手も不自由のようです。

私が少し反発を感じているのは、全身性CPの人や言語障害のある人はとらないよ



うに思える所です。

仕事につきましては、部長格の方が一名、主任一名、女子事務員一名、他一名が本社から出向しています。

まだ、できてから三年目ということもあってか、障害者で役職についている人はいません。内部は『プログラム・チーム』『ワープロ・チーム』『データ・エントリ・チーム』『D・Mチーム』『印刷チーム』と分かれています。障害者の私たちが営業活動をするのではなく、本社出向の三名の健常の方が本社から依頼される仕事を、こなすわけです。

障害者も、各課に点々と配属されて健常者と入交じって勤務するのが理想ですが、ハセコー本社は「それはあまりに敷地が狭すぎる」というのが仕方ない理由です。

お給料の面では(休日も)全く本社並みなので、障害者雇用の会社としては『真中より上』という所になるでしょうか？

けれど、まだハセコー・グループのメンバーには入れてもらっておらず(黒字になっていないから仕方ない?)会社の保養所などを使わせてもらえない面もあります。

部長のTさんは大阪出身でニックネーム

は「おっさん」。それは誰彼かまわず「お

っさん、おっさん」と呼びかける所から来ているものです。「仕事せんかい、アホボケカス」が口癖。リーダーがワンマンなのは大なり小なりどこでもあること。

でも、私はこのT部長中々好きです。

障害者にも「一人一人がこの会社を築いている」という意識を持ってやって欲しい。」「いつも言っています。まだまだ、今は力をつけている、といった状態です。

一般企業で障害者が働くのは、まだまだ試行錯誤の開発途上ですね。でも、私は今のところ、この会社で満足しています。

お知らせ

9月の出会い

日時 9月18日(土)午後1時～4時
内容

「まちづくり条例の過去・現在・未来」
-真のバリアフリー社会をめざして-
パネラー：大阪府立大学社会福祉学部教授
定藤 丈弘氏

場所 育徳コミュニティセンター 2階
研修室 [阿倍野区阪南町5-15-28
車椅子トイレ・スロープあり]

会費 なし
申し込み・問い合わせ先

☎06-691-1028 (富田慶子)

編集後記

岡 知史氏よりご紹介を受けて、大阪市立大学大学院の後期博士課程で、老人福祉を専門にしておられる神垣真澄さんに、「高齢者と在宅介護」の周辺について連載していただきます。上平幸雄氏の<アメリカ>が終り、中村美根子さんの<中国>が始まります。

本紙は<100号>まであと14(石)

編集人：サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.86[93.8.21発行] 定価¥100.

代表：上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365

連絡先：富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028

表題：斉藤孝文・筆

印刷：セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.